【令和３年度市政モニター】理想のまちの姿（要旨）

【１】「水戸の歴史に市民が親しみ，主体的に学べる環境」があるまち

・理想とする水戸市では，広範な市民層が自ら学びの場を運営し，主体的に水戸の歴史・文化を学ぶ環境が整備されている。これにより，多くの市民が「水戸人」としてのアイデンティティやシビックプライドを持っている。その際には，水戸の先人と現代の自己との連続性を体感するため，過去の忠実な復元がある程度重視されている。また，本間玄調や小宮山楓軒といった，民衆の福利厚生に尽力した水戸の先人達の記憶が，地域で誇ることのできる歴史物語として，広く共有されている。

・上記の学びにより，弘道館や水戸城や偕楽園といった文化遺産が多くの市民にとって，「誇るべき我々の遺産」として認識されている。歴史や文化遺産への誇りと帰属意識が醸成されることにより，地域の未来を自ら背負おうとする地域住民が育ち，そうした地域住民による自治活動・公益活動が活発に行われている。

・歴史を核として，「水戸人」としてのアイデンティティ意識を深めることは，移住・定住・Ｕターン人口の増加にも将来的に大きく関わってくる。

〇リアル弘道館

https://www.nishinippon.co.jp/item/n/409129/

【２】「子育て世代が多く居住する，活力ある中心市街地（水戸駅周辺）」があるまち

・自家用車がなくても生活に必要な施設にアクセスできる高い利便性があり，また，子どもと楽しく歩くことができるため，子育て世代（又は世帯）に居住場所として選ばれ長期的に活力がある中心市街地（水戸駅周辺）が理想の姿である。

・現状では中心市街地に居住し，自家用車を所有することについて，金銭的な負担はもちろん，敷地不足のために遠方での駐車場確保や機械式駐車場の利用など，物理的にも負担が大きい。

・水戸駅周辺は子連れで楽しめる施設や歩いて楽しい街並みがあるため，充実した生活が送れる可能性がある。

・提言を実施することで中心市街地への移住・定住が促進されると考える。

【３】水戸駅を中心とした，平日・休日を問わず家族で心身豊かに暮らせるまち

・私が理想とするまちでは，天候や平日・休日を問わず家族が水戸駅周辺で長い時間過ごしていることから，水戸駅周辺に愛着を持った子どもが大人になった際に，まちなかへの居住を選択することでコンパクトシティが持続的に形成されている。更に，コンパクトシティにより水戸駅前が活性化され，より子連れで過ごしやすい環境となる正の循環を生み出している。

・具体的な環境として，小さな子どもが全身を動かして長時間飽きずに遊べる，広々とした室内遊戯施設が水戸駅前にある。そこでは，小さな子どもが遊ぶことができる遊具が提供され，託児サービスも備えられている。それにより，親が小さい子どもを連れて行けない場所（映画館・美術館・芸術館，カルチャーセンター，静かなレストラン等）へ行くことができ，気分転換ができるよう図られている。

・室内遊戯施設付近の商業施設にはフードコートや子供用品店が並び，子供を遊ばせる前後で気軽に利用できるようになっている。

・上記の施設によって，子育て世帯の生活が水戸駅周辺で完結でき，親子ともに水戸駅前の歴史・文化施設，商業施設のサービスを豊かに享受できるようになる。これにより，子育て世帯のまちなかへの移住・定住を強く推し進めるものとなる。

【４】「年齢・性別・出身地等の多様性が尊重される環境」があるまち

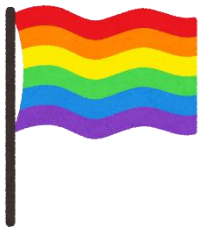
・ライフスタイルのあり方のみならず，性志向／性自認の種類，国籍の種類，障害の有無等によって享受できる生活の利便性に偏りが出ないことが理想の姿である。

・水戸市の移住・定住人口の将来的な増加を目指すためには，次世代の再生産労働を担うと期待される若年層，特に女性の生活環境の向上を目指す必要がある。

・結婚や子育てといった特定のライフプランの選択を陰に陽に強制するような地域の雰囲気は，かえって若年（特に女性）の人口流出の大きな原因となり得ることを踏まえ，民間企業等における女性の雇用環境の改善を促す取組や，結婚・出産をする／しないを含めた個人のライフプランの選択の自由を尊重することの重要性を，教育等を通じて啓蒙していくことが，水戸市への移住・定住の促進に繋がっていくと考えられる。

・ジェンダーの多様化により，高校での女子スラックス導入等，制服選択の幅が広がっている。

・水戸市立小中学校において，実際に制服を着用する子どもたちに意見を聞き，それを踏まえ実際の学校現場に反映させることが重要である。



【５】「世代やバックグラウンドの関係なく，多様な人々が安心して交流できるまち」

・どのような人も地域とゆるやかなつながりを持つことができ，安心して過ごすことのできるまちが「ここに住み続けたい」と思えるまちであり，理想の姿である。

・子ども，高齢者，外国人，障害者，他地域からの移住者など，様々な市民が属性を問わず利用できる居場所を提供し，多様な交流が生まれる場となれば，地域への愛着が大きくなる。

・属性の垣根を越えた交流によって，多様な視点や情報が行き交い，差別や偏見をなくし，孤立を防ぎ，困ったときに助け合える，豊かで安全な地域づくりができる。

・「まちの縁側」は「特に理由がなく滞在することができ，その場にいる人々と交流できる」地域の拠点である。

参考

・ボランティアネットながの「まちの縁側」
http://www.vnetnagano.or.jp/engawa/engawateian.htm

・港区　芝の家
https://www.city.minato.tokyo.jp/shibachikusei/shibanoie.html

・川崎区地域の縁側づくり要綱（川崎市）
https://www.city.kawasaki.jp/templates/outline/kawasaki/0000086940.html

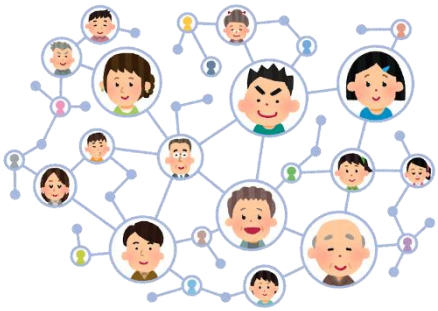
川崎市ホームページから引用

【６】必要な人に必要な行政サービスが届くまち

・私の理想のまちは，子育て世帯・高齢者・障害のある方・外国につながる人・ＬＧＢＴＱなどに関わらず，誰もが明日の暮らしに希望を持てるまちである。程度に差はあるものの，人は経済・社会的に他者の支援や交流を必要とするが，このまちでは皆に行政サービスが行き届くため，皆の生活の悩みが解消されている。このことから，誰もが安心して生活することができるため，自分の望む暮らしの実現を目指せる環境が整っている。

・R4.4 に新設される子ども部をただ各部の子どもにかかわる部署を集約した場に留めず，プッシュ型支援を目玉政策として取り入れることで，水戸市が真に子どものために変わっていこうとしていることを示すことができる。そして，プッシュ型支援の仕組みを水戸市が実施していることを広く知ってもらうことで，今の世代，そして未来の世代に充実した支援を期待して水戸を選んでもらい，「移住・定住」を促すことにつながる。

・他市町村との差別化を図り，「水戸市を選んでもらう」ためには，福祉制度の多くが採用している「申請主義」型ではなく，プッシュ型の支援を行うことが必要である。



【７】「安心して子供を産み，育てられる環境」があるまち

・私の理想とするまちは，出産や子育ての負担を解消する支援策が充実していることから，市民が子どもをもうけるにあたり，仕事と家事育児を両立させること，高齢での出産を選択できること，他者との交流を保てることなど，充実したライフプランを自由に選択できる。そのため，子育てへの安心や余裕が生まれ，親としても個人としても幸せに過ごせるまちである。

・移住者の獲得は自治体間の競争ともなり得るため，出生数を増やす取り組みは他地域との関係性を考える上でも大変望ましい人口維持の方法である。

・女性の社会進出が進み，それに伴い発生している，仕事と家事・育児の両立のための身体的・心理的負担，晩婚化・高齢出産の負担，キャリア中断のリスクを減らす取組が必要である。

・大分市家事援助サービス

http://www.naana-oita.jp/coupon/index

【８】強い経済力のあるまち

・私の理想とする水戸市は，観光産業を中心に強い経済力を持っており，充実した雇用があることから移住・定住が促進されている。

・若い世代の人々の特徴としては，自分が見たもの，訪れた場所，食べたものなどの写真をＳＮＳで拡散し，多くの人にその話題性を広げることを楽しみのひとつとしているため，そこに着目することで観光客を増やすことが出来る。

【９】首都方面に通勤・通学できる水戸市

・私が理想するまちは，交通が発展しており，特急電車を利用して水戸から都心へ通勤・通学できること，また県南地域へ通勤・通学できることである。これらにより都心の人を水戸に呼び込み，水戸市の人材を水戸市に留まらせ，移住や定住の促進に繋がる。
・水戸市では，77%の子どもが県外に一時的にでも移住しているため，水戸市にとどまって学び・働き続けられる環境を用意することは，定住促進に有効と考える。
・今日のコロナ禍において多くの企業・大学でテレワーク・遠隔授業が採用されていることは，水戸市が前進していくまたとない機会なのである。
・水戸市は，都内や柏松戸地域よりも住居費が安く，マイホームを購入しやすい。また，水戸市の住居費は，守谷市やつくば市ほど値上がりしていない。
・水戸市からは座って通勤できる魅力があり，満員電車ではない快適性がある。
・首都方面に通勤・通学する人を支援することは，水戸市への移住によって優秀な人材を離職せずに繋ぎ止めたい雇用主への利益にもなる。
・労働者が都心から水戸市へ移住する際，東京の会社に勤務し続ける場合には交通費の増加や出社できない際の会社への損失など，会社へ負担をかけることが想定されるため，その対策を講じることで移住の動機が増える。

〇他市の事例
・石岡市は定期券用ウィークリー料金券の購入費から，勤務先等から支払われる特急券に対する手当を除いた金額の半額まで助成している。なお，上限額は月額 16,000 円，年額 192,000 円である。
・越後湯沢市は新幹線通勤定期券購入費用から通勤手当等を控除した額の半額まで助成している。なお，上限額は月 5 万までであり，新潟～東京の新幹線通勤は 10 万以上する。

【10】新幹線があり交通の便が良く，都心にアクセスしやすいまち

・私の理想とするまちは，新幹線によって都心に１時間以内でアクセスできるため，水戸市から東京への通勤・通学の時間的負担が非常に少ないまちである。このことから，都心から自然が豊かな郊外への移住を希望する人達が，就職や就学をきっかけに多く移住して来ている。
・理想とする県央地域においては，関東県外からもアクセスが良いため関東県外から多くの観光客が集まっており，観光産業を中心に多くの産業が発展している。
・「水戸に住む」という選択肢を増やすためには，都心にアクセスしやすい環境づくりが必要不可欠である。そのためには，「都心まで１時間以内」というこの１時間という時間がキーとなっている。

【11】移住者同士の交流があるまち

・私の理想とするまちは，移住者が集まるコミュニティがあることから，水戸市で新たに生活を始める移住者の方でも他者との交流や生活の役に立つ情報に困らず，移住前の生活と同等以上のクオリティを保てるため，水戸市の暮らしに対し明るいイメージを持てるまちである。
・水戸の地域コミュニティに参加できていない不安感や水戸から遠隔地のオフィスに通う場合の企業側の理解の必要性への対応が重要である。
・コロナ禍およびアフターコロナにおける新しい働き方ニーズの取り込みを狙う。

【12】「芸術文化活動が盛んで，文化的な多様さが保証されている環境」があるまち

・私の理想とするまちは，芸術文化が強い関心を持たれていて，皆が生涯にわたり絵画・彫刻・文学（小説・詩・戯曲・批評等）・演劇・音楽・映像メディア等の質の高い芸術作品や文化人の業績にいつでもアクセスすることができ，文化的な創造を体験する活動に気軽に参加することが可能なまちである。ここにはもちろん，様々な学問の領域に触れ，学習する機会が確保されていることも含まれる。その結果，文化的に多様なネットワークが水戸市を越えて構築されているため，人を惹きつける芸術文化的な創造活動が活発に行われている。
・行政は，図書館などの各種文化施設を整備し，そこに保存されている作品・蔵書を含んだ種々の資料類を適切な方法で保存し，次世代に確実に継承していく義務を市民に負っている。
・国の報告書から，水戸市が各種コレクションの資料についてプレゼンテーションすることは，水戸は文化的に「何もない」地域であるというネガティブな印象を払拭し，移住を促進させるために重要であると考えられる。

〇深作欣二コレクションの研究例等
・笠原和夫脚本で制作予定であった「実録・共産党」の映像作品化の構想を推測させる書き込みを含んだ資料の研究
・「仁義なき戦い」シリーズに戦争・軍隊批判のテーマが存在することを実証し得る資料の研究

〇映画監督の資料を活用した，他市町村の文化振興例
・静岡県浜松市の木下惠介記念館
https://keisukemuseum.org/
・愛媛県松山市の伊丹十三記念館
https://itami-kinenkan.jp/